

## 平成30年7月豪雨について

- ・台風第7号や台風から変わった温帯低気圧の通過後、本州付近に梅雨前線が停滞。
- ・暖かく非常に湿った空気が継続して流れ込んだ影響で、梅雨前線の活動が非常に活発となり、この状態が、7月5日頃から8日頃まで続いたため、西日本から東海地方を中心に記録的な大雨となった。

## 内水被害の概要

- ・内水氾濫による浸水被害が、西日本を中心に19道府県88市町で発生。
- ・住宅地のほか、商店街などのまちの中心部や、消防署等の防災拠点等において浸水被害が発生。

### [平成30年7月豪雨による内水被害](#)

## 浸水対策の効果事例

### 事例1: 岡山県岡山市

- ・岡山市では、平成23年台風12号の浸水被害発生地区などを中心に、下水道の整備による浸水対策を実施。
- ・平成30年7月豪雨では、対策を実施した排水区では浸水被害を大幅に軽減。

### [岡山県岡山市の浸水対策効果事例](#)

### 事例2: 兵庫県篠山市

- ・篠山市では、平成25年台風18号により市内で最も浸水被害を受けた糯ヶ坪(もちがつぼ)地区において、雨水ポンプ場等を整備
- ・平成30年7月豪雨では、同地区において浸水被害は発生しなかった。

### [兵庫県篠山市の浸水対策効果事例](#)

## お問い合わせ先

国土交通省 水管理・国土保全局 下水道部 流域管理官 課長補佐 宮本 豊尚  
電話 :03-5253-8111(内線34323) 直通 :03-5253-8432 ファックス :03-5253-1597

国土交通省 水管理・国土保全局 下水道部 流域管理官 水害対策係長 中田 啓介  
電話 :03-5253-8111(内線34314) 直通 :03-5253-8432 ファックス :03-5253-1597

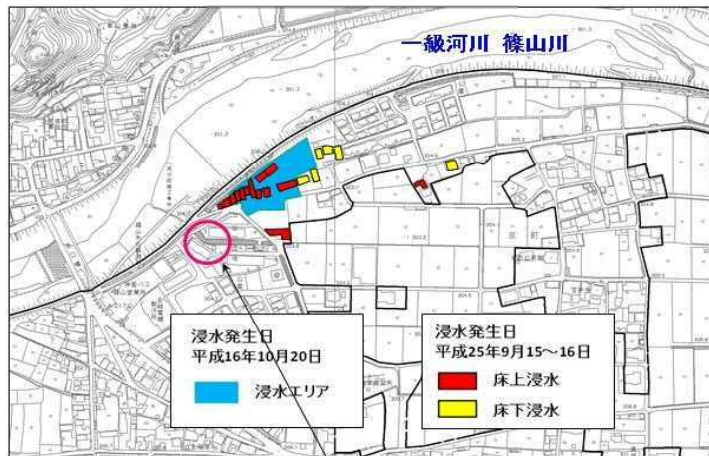
# 平成30年7月豪雨における浸水対策の効果事例について

兵庫県篠山市

もちがつぼ

- 糯ヶ坪地区は平成25年9月の台風により篠山市内で最も浸水被害を受けた。（床上浸水14戸・床下浸水4戸）
- 浸水原因を調査した結果、排水先の河川水位が上昇したことにより、内水の排水機能が低下したことが判明。
- 平成29年度から雨水ポンプ場（2.0m<sup>3</sup>/秒）の整備に着手し、平成30年6月に整備が完了。
- 今回の豪雨でも河川水位が上昇したが、**ポンプ場により内水の排水機能を確保し、浸水被害は発生しなかった。**

## 過去の浸水被害



雨水ポンプ場建設場所



浸水状況



新設ポンプ場

今回の豪雨では、7/5~7/8の4日間で59時間にわたりポンプを稼動。約7.8万m<sup>3</sup>の内水を排水し、ポンプ場整備が浸水被害の軽減に大きく貢献。

## 浸水被害発生時と今回の豪雨時の比較

	年月日	河川最大水位(m)	1時間最大降水量(mm)	24時間最大降水量(mm)	被害戸数
前回	H25.9.15~16	3.257	19.0	204.5	18
今回	H30.7.5~7.7	3.050	27.5	189.5	0

前回と同規模の降雨であったが、浸水被害は0件

## 河川水位の変動

○平成30年7月5日~8日（4日間）の観測所雨量と篠山川の水位

